令和5年度 第2回刈谷市子ども・子育て会議 議事録要旨

1. 日時

令和6年3月5日（火）午後3時00分～4時30分

2. 場所

市役所101会議室

3. 出席者

会長及び委員20名

事務局17名

4. 議題

- (1) 子育て支援に関するアンケート調査結果報告書（案）について（資料1）
事務局から「刈谷市子育て支援に関するアンケート調査結果報告書（案）」
について説明した。

（質疑）

- ・委員 まず、アンケートの回収率が52.5%となった要因について何か考えつくことがあれば教えてほしい。

次に、ちょうど前回と今回の間にはコロナ禍があったので、今回の結果で何かコロナが影響したのではないかと。分析はまだこれからなので詳しいことは分からないと思うけれども、取りあえずの数値が出た中でそう考える部分があれば教えてほしい。

- ・事務局 1つ目について、資料1の2ページで回収率を冒頭で説明した中で、16.7ポイント下がっている。この要因に関しては事務局でもいろいろ話し合ったが明確な答えが見つけられていない。

まず、アンケートの調査項目については、国が指定する調査項目に準じて作ったものなので、前回とは特段変わっていない。

次に、回答方法に関しては、回収率を前回より上げようと、ウェブ回答での回答方法も併用して行った。しかし、結果としては下がってしまっている。

このように、理由が何かというのは具体的にはなかなか難しいが、一つの見解として、調査票の設問数が多く、各設問の文章量も非常に長い。私個人で回答してみても大体25分ぐらいかかる内容となっていた。このため、設問をもう少し平易にしたり、調査票の分量を減らしていく必要があるのではないかと考えている。

2点目の、コロナ禍が今般の調査の結果に及ぼした影響について、一番分かりやすいのが、資料1の94ページ図表99で、刈谷市のサービスの利用状況のところ。前回調査との比較において、利用状況が全般的に下がっている。この調査自体は令和5年11月1日時点の調査ではあるが、コロナ禍のときの利用のことも踏まえて回答した方もいるのではないかと思う。

このため、サービスの利用状況が落ちているのがコロナの影響だったという推測ができる。

- ・ 委員 2つ目のコロナ禍の影響については、冒頭の事務局説明の中では、子どもが病気のとときに父母のどちらが休んだかということで、前回調査との比較で、父親が休んだ機会が多くなったから父親の関心が高まったという説明があった。

しかし、そうではなくて、今まで病気で休むというと1日か2日というイメージをしていたのが、コロナで1週間とか10日とか、長く休まなくてはいけなくなった。そうになると、父母で順番に休む必要があるから、父親が休んだという人が多くなったのではないかと、そういう分析もできるのではないかと思う。

これから分析はされるわけだが、単純に数値が増えているからということじゃなくて、そのほかの要因で数値が変わってくるということも分析の際には考慮してもらいたい。

- ・会 長 全体的な方向性としては、女性がより働くようになり、男性がより子育てするような方向性を持つ回答が多くて、また、子どもたちが預かってもらっている状況が多くなって、子育て支援センターがより低年齢化してきているというふうに受け止めている。

ただ、他方で、コロナ禍の影響ということも、委員から発言いただいたように慎重に見なくてはいけない。現場で起こっていることが、これは一時的ではないのかという観点も、現場感覚で意見をいただいでいきたいと思う。

(2) こども向け（市内小中学生）アンケート調査（案）について（資料2）

事務局からこども向けアンケート調査（案）について説明した。

（質疑）

- ・会 長 調査案に対する意見について、この会議の終了後も委員からメールなどで受け付けるとのことであったが、期限はいつまでとするか。
- ・事務局 短い期限で恐縮ではあるが、3月11日(月)までにいただきたい。
- ・委 員 小学生、中学生のアンケートということで、子どもが見たときに迷いそうなところが2か所ある。

1つ目は、問4の3の選択肢「クラブ活動」。これは学校だと、小学生の月に1回ぐらいある将棋クラブとか、折り紙クラブと子どもは受け取るが、それで合っているか。それとも部活動の意図か。
- ・事務局 部活動の意図であった。
- ・委 員 そうであれば、「部活動」と表記しなければ、子どもには伝わらないと思う。

- ・委員 2つ目は、「地域のスポーツクラブ」、「塾」、「習い事」という言葉について。問3ではこれらが分けて選択肢となっているが、ほかの設問では括弧書きの例でいろいろ使っている。大ざっぱに子どもの認識としては、学校から帰った後に行くのは全てが「習い事」で、その中でスポーツクラブに行っていたり塾に行っていたりという認識ではないか。分ける必要がないならば、「習い事」に統一した方が子どもたちは分かりやすいのではないかと感じた。

- ・会長 その辺は、いま急速に学校の部活動の外部化みたいなことも進んでいるので、いまの子どもの受け取り方に配慮する必要があるように思う。

- ・委員 問13から15の質問は、ちょっと漠然としていていると思っていて、特に問15「刈谷市の将来は明るいと思いますか」と聞かれてもなかなか小学生では答えにくいのではないかと思った。
また、自由記述を設ける予定はあるか。

- ・事務局 自由記述は設けない予定である。

- ・委員 この調査は学校で回答することになるのか。親とか学校にも言えなくて、何か誰かに言いたいみたいなことがもしあったとしたら、学校や親の目に触れない形で書きたいのではないかと。そういう回答の場を設けられれば、何か悩んでいることとか、誰かに言いたかったことを書いてくれる子がいるのではないかと思う。

- ・委員 回答の仕方について、これは学校で学習用に配付されているタブレットを利用するという説明だが、学校で回答するのか、家庭で回答するのか、どちらの予定か。

- ・事務局 学校で回答してもらう予定である。

- ・委員 その場合、自分の回答について、匿名性が守られることを子どもが分かって回答してくれるのか、誰かに見られることを気にしながら回答するのかで、回答の内容が変わってしまう可能性があるのではないか。どのように子どもに対して知らしめて回答してもらうつもりか。

- ・事務局 回答については、あいち電子システム上で入力・送信してもらうが、学校名とクラス名を記入する項目があるため、回答者についてはある程度、特定をしようと思えば特定はできる状況になる。ただ、これを学校側のほうに提供するかどうかについては、現時点では考えてはいない。

- ・委員 最終的には学校側に提供することはないとしても、回答するとき子どもがどう感じるかによって、回答内容が変わってくるというのが問題。本来の回答ができない可能性もあるので、その辺は配慮してほしい。

それから、全体の項目を見ると、個々の設問がいろんな調査を参考にして作成されているので、質問のレベルとか、回答の選択肢の作り方が、先ほどの「クラブ活動」の話と同様、何となく設問ごとにはばらばらというか、レベルに差があるように感じる。

例えば「相談できる人がいますか」と、「いる」、「いない」と先に答えさせて、次に具体的なものを答えている設問と、そうではなくて、選択肢の最後に「特にない」というのを設けている設問がある。その辺は統一をして、分かりやすいようにしたほうがよいのではないか。

- ・委員 設問の作りが、聞かれて落ち込んでしまうような、何か嫌な感じがするものが多いように思う。聞かれて楽しい答えを出すというか、楽

しくするような、わくわくするような答え方をすると、子どもたちはそれだけで気持ちが変わるので、その辺を考えたほうがいいのではないか。

- ・ 委員 このアンケートを行うに当たって、子どもたちに対して、アンケートを行う目的を、どのように知らせるつもりか。

目的の伝え方次第で、子どもたちの回答の内容が、今、皆さんがおっしゃられたことも変わってくると思う。説明文の案はあるか。

- ・ 事務局 アンケート冒頭のリード文については、現時点ではお示しできないが、校長会で調査の依頼をする際には、そういった説明書きとか、詳しいものもつけて、もちろんQRコードもつけて説明をしたいと思う。なかなか文章だけではお子さんたちには伝わらないと思うので、各学校さんにもご協力をいただいて、こういった趣旨でこのアンケートをやっていきますよということを細かく丁寧に説明したい。

今回は、委員の皆様はこのアンケートの趣旨を説明する鑑文と、調査の設問についての説明だけになってしまっているが、また実際に各学校さんに依頼する際には、別途資料を作ってお渡ししたい。

- ・ 委員 せっかく「こどもまんなか」ということで、子どもの権利条約だとか、今、そういうことがうたわれているので、あなたたちをととても大事にしているんだよ、こういう法律ができて、こういうところから刈谷市がこう考えてこの資料にするんだよというような、僕たち、私たちの意見がこのアンケートも反映されるんだよというような趣旨を、ぜひ載せてもらいたい。

- ・ 委員 そのことも含めて、これは小学校5年生と中学校2年生がやるということだが、校長会で説明をされても、それを担任まで落とすのはなかなか難しいという実情がある。なので、担任用の読み原稿を作って

もらって、担任の先生は、これを読んでこれをやらせてくださいというふうにしてもらえればその意図は十分伝わると思うので、そうしてもらいたいと思う。

- ・ 会長 調査主体としての責任を持った「言葉」や「やり方」ということかと思う。

今回、子どもを対象とする調査は初めてなので、きっと考えるべきことがたくさんあると思う。短期間で大変であるが、どうぞよろしく私からもお願いしたい。

私も中学生対象の調査に関わったことがあるが、調査するときに、子どもたちが、何かワーッと騒いでしまいそうである。子ども同士で、「何答えた？」とか。そうではなくて、一人一人を考えてほしくて、ほかの人の答えを気にしたり聞いたりしないで、あなたが答えてくださいというように、注意事項で言葉として書いておいて、その上で先生方にもこういう趣旨なので協力いただきたいというふうに作成できるといいかなと思う。

- ・ 会長 実施までの時間が短いので大変ではあるが、調査するときにプレ調査、調査対象者と近い人に調査票のチェックをしてもらうという段階を経ることが多く、一般的である。大人を対象としたものは、今までのモデルがあって国の調査と比べたりするので調査票の内容は確立しているが、子ども向けの調査は初めてということなので、もし可能であれば、子どもさんのいる方に頼んで意見を言ってもらおうというステップを踏めるとより良いのではないかと思う。

5. その他

(1) 令和6年度スケジュール(案)について(資料3)

事務局から「令和6年度スケジュール(案)」について説明した。

(質疑)

なし

(2) 委員からのお知らせ事項等について

- ・ 委員 ホームスタートについて、刈谷でやらないかということを知られたことがある。これは全国的に始まっていて、今、岡崎とか安城とかでやっている取組であると。ただ、刈谷はママサポートの取組があるので、ホームスタートというのはまだ手をつける段階ではないのではないとも思う。けれども、ホームスタートは全部ボランティアで、ママサポートは有料であるとのこと。今回は、ボランティアでそういうことをしたいという方が見えて聞かれたのだが、それに関して、答えてもらいたい。

- ・ 事務局 ホームスタートの導入についてであるが、刈谷市としては、育児ママ訪問サポート事業という形で、無料で、どちらかというところをメインとしたサポートを既に行っている。現在はこちらで対応していきたいと考えており、今現在、すぐにホームスタートの応答というのは考えていない。

また、家事支援については、例えば産後ヘルパーの派遣事業など、そういったところがホームスタートという1つのくりではなくて、いろんな事業が重なり合って、今対応させていただいているという状況である。

- ・ 委員 お話をいただいた方は、1人のママに傾聴、家事のお手伝いとか、ママと一緒に買物に行くとか、そういう手助けをしてあげたいということをおっしゃっていた。刈谷市はママサポートとか、いろんな分野

でばらばらなので、それを懸念されていて、包括的にフォローしてあげたいということをやっていた。

- ・ 会 長 ホームスタートの利点などは、少し調べたり、考えたりしてからという感じかなと思う。子育て支援とか、妊娠期も含めて、一貫した支援者がずっと見ていく、フィンランドのネウボラみたいな、そういうスタイルがいいよねというようなことは言われている。日本型ネウボラもやろうと導入しているところもあるが、結構ばらばらな印象である。

毎年、刈谷市の子育て支援センターへ学生を連れて行かせてもらうが、先日の「おとうさんと遊ぼうDAY」は、父親たちがすごく多くて「当たり前」になっているように感じた。今さら「おとうさんと遊ぼうDAY」というのももういいのかもねという話をしていた。

というのは、結局、育児は母親がやるという、日本ではそういうふうになってきた歴史があるから、それでママとか、ママじゃなくてパパもとか言っているけれど、そういうふうなジェンダーの見直しも含めて根本的に考えていく時期かもしれないと今伺って思った。

私自身も全国的な展開とか、外国の例とかも勉強しながら考えたいなと思った。そういうことも含めて、少しこれはゆっくり考えていくテーマかなというふうに思った。